

令和7年 第22回

川西市教育委員会（定例会）議事録

川 西 市 教 育 委 員 会

○ 会議日程・付議事件	1
○ 出席者	2
○ 説明のため出席を求めた者	3
○ 議事録作成者	3
○ 議案等審議結果	4
○ 会議の顛末	5～17

○ 会議日程・付議事件

会議日時 令和7年12月18日（木） 午後2時

場 所 川西市役所 4階 庁議室

日程 番号	議 案 番 号	付 議 事 件	備 考
1		議事録署名委員の選任	
2		前回議事録の承認	
3		教育委員の活動について	
4	報告 第6号	専決報告について (令和7年度一般会計補正予算について)	
5		諸報告 令和8年度私立幼稚園・認定こども園1号 園児募集に係る入園内定状況（2次募集）について	

○ 出席者

教 育 長 石 田 剛

委 員 治 部 陽 介
(教育長職務代理者)

委 員 佐々木 歌織

委 員 金 子 愛

委 員 澤 野 幸 司

○ 説明のため出席を求めた者

教 育 推 進 部 長	岩 脇 茂 樹
教 育 推 進 部 副 部 長	富 本 幸 二 郎
教 育 推 進 部 副 部 長	木 山 道 夫
(教育保育職員・入園所相談担当)	
教 育 推 進 部 副 部 長	高 橋 忠 大
(教育保育・インクルーシブ推進担当)	
教 育 総 務 課 長	田 中 秀 弥
入 園 所 相 談 課 長	岸 本 匡 史

○ 議事録作成者

教 育 総 務 課 主 事	石 塚 太 樹
---------------	---------

○ 議案等審議結果

議 案 番 号	議 案 名	提 出 年 月 日	議 決 年 月 日	議 決 結 果
報 告 第 6 号	専決報告について (令和 7 年度一般会計補正予算について)	7.12.18	7.12.18	承 認

○ 会議の顚末

[開会 午後2時]

石田教育長	ただいまより令和7年第22回川西市教育委員会（定例会）を開会します。 初めに、「本日の出席者」を報告します。 本日は、全員出席でございます。 なお、「事務局職員の出欠」については事務局から報告をお願いします。
教育総務課長 （田中）	本日の「事務局職員の出欠」につきまして、ご報告申し上げます。 本日は、議題に関係する職員が全員出席でございます。 どうぞよろしくお願いいたします。
石田教育長	本日の「議事日程」につきましては、配付しております議事日程表のとおりであります。 これより日程に入ります。 日程第1「議事録署名委員の選任」を行います。 教育長において、治部委員、金子委員を指名します。 よろしくお願いします。 次に、日程第2「前回議事録の承認」でございますが、事務局において調製し、第20回定例会及び第21回臨時会の議事録の写しをお手元に配付していますので、事務局から説明をお願いします。
教育総務課長 （田中）	それでは、議事録についてご説明いたします。 第20回定例会の議事録につきましては、1ページに会議日程及び付議事件、2ページに出席者、3ページに説明のため出席を求めた者、4ページに議案等審議結果、5ページから議事録でございます。 署名委員は、佐々木委員と澤野委員にご署名をいただいております。 次に、第21回臨時会の議事録につきましては、1ページに会議日程及び付議事件、2ページに出席者、3ページに説明のため出席を求めた者、4ページに議案等審議結果、5ページから議事録でございます。 署名委員は、澤野委員と治部委員よりご署名をいただいております。 説明は以上でございます。
石田教育長	説明は終わりました。 ただいまの説明について質疑はございませんか。よろしいですか。 それでは、お諮りいたします。

第20回定例会及び第21回臨時会の議事録につきまして、これを承認することに異議はございませんか。

(「異議なし」の声)

石田教育長

異議なしと認めます。

よって、「議事録」につきましては承認されました。

次に、日程第3「教育委員の活動について」であります。

事務局から報告をお願いします。

教育推進部長
(岩脇)

それでは、11月分の教育委員の皆様の活動についてご報告いたします。
佐々木委員におかれましては、定例校園所長会議にご出席いただき、ウクライナからホームステイされておられるアントンさんのご紹介をいただきました。

金子委員におかれましては、明峰中学校での宿泊防災学習、西宮市で行われた阪神7市1町教育委員会連合会第2回研修会、川西養護学校での川養祭、清和台中学校での給食献立意見交流会、緑台中学校での生徒との意見交流会、緑台小学校での「学びの深化」実践研究発表会にそれぞれご参加いただきました。

また、校長、教頭候補者を対象に模擬面接の面接官を務めていただきました。

澤野委員におかれましては、加茂こども園にて公開保育及び研究会講話を行っていただきました。

また、東谷中学校での生徒との意見交流会に、佐々木委員、金子委員、澤野委員に。川西中学校での生徒との意見交流会には、佐々木委員、金子委員に。多田中学校での生徒との意見交流会には、治部委員、金子委員にそれぞれご参加いただきました。

最後に、全ての教育委員の皆様に、清和台中学校で開催されました総合教育会議にご参加をいただきました。

主なものではございますが、ご報告させていただきます。

石田教育長

ただいま、事務局から報告ありましたが、各委員のほうから補足や意見のほうをお願いします。

まず、治部委員。

治部委員

多田小学校に訪問してきたことがたいへん印象に残っていますので、多

田小学校で感じたことを少しでも共有したいと思います。

多田小学校においては、教科担任制、学年担任制を採用され、それに対する運用上の困難さがあるのか質問しました。「子どもたちの目線で考えたら良いことしかないような気がする」とのご回答でした。私は、個人的に教科担任制、学年担任制に賛成の立場ですので、この取り組みがもう少し広がればと思い応援してきました。

一方で、時間割を組む困難さなど、学校運営をする上での難しさはあるようでした。今後、教科担任制、学年担任制がどのように発展していくのか注目したいと思います。

あと、校内サポートルーム、通級指導、特別支援教育の様子を見せてもらい、現職の先生と意見交換しました。通級指導が非常に活発に活動されて、学業支援以外に運動プログラムなども取り入れている様子を拝見しました。運動プログラムが背景にあることで、学業に良い影響を及ぼしているのではないかと、校長先生も実感されているようで、特別支援教育、通級指導が、学業支援だけにとどまらず、運動感覚スキルとか、社会情動的スキルの成長に広がっていくのも、今後、期待できるポイントと思いました。

石田教育長

ありがとうございます。

多田小学校での「チーム担任制」は、清和台南小学校でも実施しています。清和台南小学校は、学年単学級が6学年中5学年ですので、実際には、チーム担任制で学年を越えて担任をローテーションしている形になっています。もちろん、対象が自分のクラスだけではないので、児童がたくさんいるので、最初は児童たちを理解するのに時間かかりますけど、時間をかけて知っていくと、学年が変わっても児童たちの様子がよく分かるし、児童たちから見たら、いろんなチャンネルで相談できたり、話ができたりするというのはすごく大事と思っています。多田小学校は全国からの視察に対応して、成果と課題みたいなのも達していると思っています。

ただ、小学校長会には言っていますけども、これからの教職員、今、未配置を解消するために一生懸命探していますけど、これは、川西だけではなく兵庫県、また、全国で何百人と何千人と足りないという状況の中で、一人の担任で1年間学級を見るのは、なかなか難しい状況になってきているのも事実で、学校としてではなく、市としてどのようにしていくのか小学校長会と検討したいと思っています。現段階は、校長が教職員と相談しながら、教育委員会が支援できればと思います。

もう一つ、通級指導ですけども、実は、通級指導の加配教員がついて、

その対象の児童に対応していますけども、非常に対象とする児童生徒が増えているというのは現実です。通級指導にして、やるのはいいですけど、一点だけ、やっぱり難しいのは、加配定数が決まるのが3月末です。つまり、全ての人事配置が終わるか終わらないかぐらいに初めて川西市で何人加配が分かるので、それから人を探さないといけないので、それが非常に厳しいです。今、さっきも言いました教職員が不足する中で、3月末から教職員を探すというのは、かなり厳しいです。もう少し前倒しできないのか話がありますけど、ただ、県の教育委員会も議会の承認を得てから加配が開始されるという形になるので、どうしてもその日程になってしまうのが、大きな課題と思っています。

川西市は、加配教員をたくさん配置していただいて、それにやっているということで、組織的に、そういう通級指導についての学習をしなければならないとは言っているところです。

佐々木委員、何かありますでしょうか。

佐々木委員

先ほどもご紹介いただきましたように、今、うちにウクライナハルキウから、避難民のビザで来ている21歳の男子学生と一緒に暮らしています。

平和学習とか、探求の授業で国際理解とか何らかの助けになってもらえたらと思ひまして、校長先生、園長先生の会議に出席してプレゼンをさせていただきました。何校かからお声いただきまして、これまでに3校、小学校1つと中学校2つとで、主に平和学習ということで、戦争の話を彼にしてもらいました。

「平和が何かということを知る」というよりは、「戦争が何であるか」、それが「報道の向こう側で起こっている」、「爆弾が今日も降っているのか」ではなくて、一般の市民がどういう思いで、どんな寒くて電気がない中で避難生活をこの3年以上の間、4年近くしてきたかっていうことを彼の口から子どもたちに語ってもらいました。

彼は、2022年2月の段階で17歳でした。男性ということもあって、徴兵対象年齢ですので、国外に出ることが難しかったです。でも、今年8月にウクライナで法令が変わった関係で、学生の身分である彼も出国することが叶いまして、やっと3年半かけて呼び寄せることができて、そういう話を聞きまして、私も、これを絶対子どもたちに共有したいという思いがあって、このたびの企画をさせていただいております。

また、1月に小学校で4年生から6年生までの3学年にお話をする機会をいただいておりますので、来年度も引き続いてこういう活動ができればいいと思っています。

石田教育長

また、その内容等については、私も実際に見に行けていないですけども、教育委員のトピックスの中でまた提供したいです。学校から聞こえてきているのは、非常にお互いの学びにできたということで、随行した指導主事も、すごく興味深い内容だったというのは聞いています。

以前から問題提起しているように、日本での平和学習は長崎、広島の前爆を中心ですけど、それはそれで大事なことだとは思いますが。何かそれに比重が置かれすぎて、「遠い過去のものである」とか「日本は今平和である」とか、何かそういうような刷り込みもあるのではないかと思います。前も言っていますが、ウクライナの問題とか、もう少しそこで起こっている課題とその当時の日本の課題は極めて密接に関係しているものだと思うので、報道がどうだとか、今の徴兵制がどうであるとか、そういうところに引きつけて考えていかないと、何か違うメッセージになってしまわないと思っていますので、またぜひ機会があればと思いますし、できたら、教育委員会の中でも一回、学習会みたいなのが事務局内でできていいのではないかと、直接そういうお話を聞かせていただくというのも、私たちにとっても学びになると思っています。よろしくお願いします。

できるだけ、学校もそうですが、園所もそれぞれの年齢に応じた学びがお互いにあるのではないかと考えています。

ありがとうございます。

金子委員、お願いします。

金子委員

この前の日曜日に清和台公民館であった、学校が共に学ぶことになったことについての地域説明会に参加させていただきました。思ったよりもたくさん私は来られていると思って、お話に出た内容が、皆さんの中では共に学ぶということが前提になっているお話で進んだと思います。共に学ぶようになった後にどのような取り組みをするのですか、不登校の子たちについてとか、スクールカウンセラーのことについてとか、また、バスの時間、あと、共に学ぶということをチャンスとしてどういう新しい課程にされるのですかみたいな、具体的なことをお聞きになっていたと思います。それだけ清和台の人たちが前向きに捉えてられていらっしゃるということはすごくありがたいと思いました。やっぱり丁寧に説明されてきたことが実っていると感心して、保護者の方が、多分お子さんから聞いたと思いますが、「規模の異なる学校との交流があつてよかった」と子どもたちが、自分に引きつけて考えることができ、「保護者としてもよかったと思います」とおっしゃっていて、ご準備大変だったと思うのですが、授業さ

れて本当によかったと思いました。

石田教育長

ありがとうございました。

先週土曜日に清和台小学校と清和台南小学校、日曜日に清和台公民館という形で、地域説明会をさせていただきました。清和台小学校、清和台南小学校の参加者は20名弱でした。公民館が一番多くて、それでも30名程度という感じでしたけども、おおむね内容については今おっしゃったとおりで、保護者の意見、それから就学前の保護者の意見、それから子どもらの意見、別に多数決を取るわけではないですけど、いろんな意見が出て、その懸念に対してこういうふうに対応していくような説明だったと思っています。丁寧に意見を聞き取りできたことが、担当課が本当によく頑張ってくれたと思うんですけど、それと、やっぱり子どもたちと一緒に学ぶ機会ができたというのも子どもさんたちも当事者意識を持ってできたのではないかと思います。

ただ、A案としては小学校統合という案が基本だったですけど、やはりこれからの清和台地域を考えていくときに、小学校の統合だけで本当にいいのだろうか、そこでも意見が出ていました。B案とかC案とか、まちづくりの視点からも学校を考えていかなければならない意見が出て、B案、C案も越えなければならぬハードルがありますので、すぐにできるかどうかは、これから協議していかなければならないと思いますけど、そういう点で捉えられているというのは思いました。ただ、詳細がこれから大事で、総論賛成だけの話になりますので、来年7月8月に開催予定の説明会でどれだけ詰めた話ができるのか。また、保護者の意見も実際聞いていきながら考えていかなければならないという思いです。報告に変えて、そういう形でさせていただきたいと思います。

金子委員、川西明峰高校の探求学習について、お願いします。

金子委員

川西明峰高校のESD発表会という探求活動の発表の日でした。昨日と今日、開催されていますけども、私は昨日、拝見しました。

探求学習を1年生も2年生も3年生も全員で、発表することだったらしいです。週1回、年間でいうと30時間ほどかけて、一つのテーマでやられて、テーマを見付けてから仮説を立てて、検証して、一応結論を出して、さらにその後、展望とか今後こうしたいっていうところ、フォーマットをきっちりと守って、生徒さんが発表されていたので、とても分かりやすい発表内容でした。かっちりとされていますけど、テーマ自体は身近なテーマを選んで、学校の先生もそれを尊重されて進めているという感じでした。

テーマの一つは「自分の部活のスポーツ番組を見ているのか。」、部活している子ならではというのか、「未練が残る理由は何だろう。別れ方なのか、思い出なのか、人物なのか。」とか、面白いテーマをアンケート取って、ちゃんと発表できる形にまとめてっていうのは、やっぱり生徒さんも頑張られたでしょうけど、それに伴走された先生たちのご指導もあったと思いました。

石田教育長

私のほうは日程が詰まっていたので、金子委員に行っていましたけど、前から各高校がそういう探求的な学び、高校はきちんと学習指導要領に位置付けられているので、そういう探求的な学びの時間を使って発表するというのは、定着しつつあるかなとは思っていますね。

今お聞きしていて、テーマが身近なのが僕もいいと思うのですよ。そんなこと調べてどうするのと大人は思うかもしれないけど、素朴に自分が思った疑問を深掘りしていくと、何かできるものがあるのではないかと思います。

その意味で言うと、緑台小学校の「学びの深化」実践研究発表会も面白かったと思っています。小学校で、フリースタイルで、地域の人とか、それから能勢電車、阪急バス、三ツ矢サイダーでしたかね、いろんな会社の人とコラボしながら学びを深めているということで非常に興味深かったです。特徴が、そういう地域や企業とのコラボと、それから、もう一つは異学年交流です。4年、5年、6年を、学年関係なくやるっていうのは、講師の方も言われていたけど、4年が、そういう学んでいる5年生、6年生をモデルとして学んでいく、自分たちが5年生、6年生になったときにそれをまた自分たちのものにして低学年に教えていく、そういうサイクルができるのはいいかなというのと、挨拶で言いましたが、一番いいのはボトムアップです。自分たちで「うさぎの会」みたいなのを作って、部会をちゃんと分けて、そのリーダーが集まって「ピョンの会」を作って、それから進捗状況が自分たちの思い込みになっていないかどうかをチェックする係も作っています。だから、すごくこだわりのある、しかも定期的に講師の方を見ていたり、先行地をかなり見にいき、常石ともに学園、イエナプランのあそこを見に行ったりとか、いろいろ勉強されているという。まだ探究学習としてはもうひと踏ん張りと思ったりはしますが、ボトムアップでやっておられるというのは、すごくうちとしては大事にしたいと思いました。非常に面白い取り組みで、さらに頑張ってもらいたいと思っています。

澤野委員、お願いします。

先ほど話がありましたように、11月12日に加茂こども園の公開保育で、公開保育の保育参観と、その後、講演を行ったところでした。

この加茂こども園に関しましては、この日だけでなく、今年、本年度入ってずっと4歳児、5歳児の保育の様子をずっと見てきて、先生方と授業を、保育後にいろいろ課題だとか、先生方がどんなことを狙っていてどの辺に課題があるかということ、ずっと話をしながらやってきましたので、やはり先生方の成長と、子どもたちが環境の中でどういうふうに成長しているかということが本当によく見てとれる公開保育でした。参加者の方も結構たくさんいて、事後のアンケートなんかを聞くと、かなり参考になる、ほかの自治体から参加された方たちにとっても、非常に保育の在り方として参考になる保育だったという感想を聞いております。

一つは、環境構成の在り方というのが、先生たちの思い込み、先生たちが勝手にゴールを決めて、それに向かって環境構成するというのではなくて、子どもたちの学びを核にして、子どもたちが多分こんなことを想定するだろうといったことを、ちゃんと先生たちが子どもの学びを見取って、育ちを見取った上で環境を構成していく、そういったことのやり方というのが、子どもたちの自主性、自律性という学びに向かう姿勢を作っているのだらうということが、非常に見てとれるような授業でした。

もう一つは、小学校でもありがちだと思うのですが、子どもたちが、やっぱりトラブルが起きるわけですね、そういう自由保育でやっていく。そういう自由保育でやっていくときの先生方の関わりというのが、非常にすてきでした。つまり、子どもたちは、当然トラブルが起きたときに先生に助けを呼んだりとか、そういう姿を見せるのですが、先生方、すぐそこに介入するのではなくて、じっと見ておく、危険があれば当然止めたりはするのですが、そうじゃなければ、まずは当事者間でやる、周りの子どもたちに何があったのって問いかけてみたり、周りの子どもたちと一緒に解決を促していく。子どもたちがそういったトラブルというものをどういうふうに解決していくかと、そこも子どもたちの成長につながっていくというふうな考え方で関わっているところはとても大事でしたし、学びもそんなに一直線で、環境がうまくいけば一直線で子どもたちが学んでいくというわけではなくて、やっぱり停滞するわけです。その停滞するときの子どもたちが、やっぱりどこに進めない理由がそこにあるのかといった辺りを、一人の保育者だけじゃなくて複数の保育者の方たちがいつも情報交換しながらやっていて、ある一定のタイミングで子どもたちのそういった活動が促されるような、そういった絶妙のタイミングも非常に見てとれる

ところがありまして、そういう話を講演の中で盛り込みながら、保育の表面的なところではなくて先生方の日常の関わりが実は子どもたちにつながっているっていう話をさせていただいたところです。

今後は、こういった子どもたちが、就学前で非常に自律的な学びを実現していると、どう小学校の教育につなげていくかっていったところで、この12月、来週ですかね、今度は加茂小学校で、加茂こども園の先生方と加茂小学校の先生方、ようやく初めて一緒になって話をする場面が出てきますので、これをお互いに、幼稚園ではもっとこうしてほしい、小学校でこうしてほしいという話ではなくて、どうやったらこれがうまくつないでいけるかといったところをうまくつなげるような研修にして、加茂小学校も来年、6月ですかね、公開授業をするということですので、それにつなげていければなと思っていますところです。

石田教育長

講師も続けていただいて、本当にありがたいと思っています。

今の加茂こども園の取り組みなんか、学習支援とか、そういういろんな支援の仕方が学校にどう響いていくかということが大事です。学校には学校のやり方がありますではなく、どこを取り入れていくのか、どこを変えていくのかというところは、率直に話できたらいいと思います。

やっぱりすぐ助け舟を出し、すぐ介入するのは、学校教育の特徴でもあるので、そこをどうくみ取っていくのかというのは、何かお互いに意見交流できたらと思います。

私も報告を担当指導主事からも聞いていまして、一番は他市町から来た人たちの、「こども園でこのような公開保育ができましたね」と、なかなかやっぱりそこはハードル高かったのにとすることは声が聞かれましたということで、前もお話ししたのですが、加茂こども園、非常にボトムアップで、自分たちで本当にやろうという意欲が強いところです。もちろんぶつかったりするときもあるし、いろいろするだろうけど、それを前向きに取り組んでいるところが特徴の一つと思うので、それが小学校の教員とうまいことタッグを組めたら面白いのではないかって思って、その12月の話し合いみたいな協議が興味深いというか、いい方向に進むことを期待したいと思うのですが、来年6月に今の年長さんが小1になった環境でどう変わっていくかという、非常にユニークな実践なので、見ていきたいと思っています。

今、いろんなことをお話しいたいて、私もいろんなところを見に行かしていただいてやったところなので、市指定ではないですけど、川西養護学校が研究発表をして、午前中授業公開、午後から講演会をしました。

市指定が昨年度と一昨年度と2年間で、極端に言ったら終わっているのですが、さらに続けてやっていこうということで、私はもうこれが一番いいと思って、指定されて終わりました万歳ではなくて、継続してやっていこうというのがすごく大事で、やっぱり川西養護学校にスポットが浴びるようになって、午前中も30名ぐらい、かなり見に来られていたということで、よかったと思っています。

テーマはICTでした。特別支援学校におけるICTの活用みたいなものをやられていたので、これからどれだけ整備できるのか、どんなふうに活用するのかいうところは課題ではあるのですが、そこは新しい視点でよかったと思っています。

秋田県から講師で来ていただいて、実際の授業を見ながらのアドバイスをいただいて、よかったと思っています。

長くなりましたので、これで一応終わりたいと思います。

よろしいでしょうか。

それでは、「教育委員の活動について」は以上とします。

次に、日程第4、報告第6号「専決報告について（令和7年度一般会計補正予算について）」であります。事務局から説明をお願いします。

教育総務課長
(田中)

それでは、報告第6号「専決報告について（令和7年度一般会計補正予算について）」ご説明申し上げます。

議案書の3ページをご覧ください。

本案は、令和7年度川西市一般会計補正予算（第5回）のうち、教育委員会関係予算について市長に申出するにつき、急施を要したため、教育長に対する事務委任規則第4条第1項の規定により専決処理いたしましたので、同条第2項の規定により報告し、承認を求めるものでございます。

議案書の5ページをご覧ください。

補正予算の内容といたしましては、市が、民間保育施設のICT機器整備を支援するため、国の保育対策総合支援事業費補助金を活用し、歳入において、民生費国庫補助金で40万円を、歳出において、保育所費の負担金、補助及び交付金で60万円を追加するものでございます。

次に、その年度内に支出が終わらない見込みがあるものについて、翌年度に限り繰り越せる繰越明許費として、牧の台小学校エレベーター設置工事1億1,550万円を繰り越しいたします。

最後に、令和8年度以降にわたって支出する必要があるため、学校等健康診断における検診器具準備及び滅菌業務ほか6業務について、債務負担行為を行います。

石田教育長

説明は以上でございます。

よろしくご承認賜りますよう、お願い申し上げます。

何かご質問等ございますか。

よろしいですか。

協議会でもちょっと説明は受けたところですけど、そういう園所の I C T 機器の整備っていうのはまだまだ継続してやっていかなければならないものだと思いますけど、職員の働き方がより円滑にできるような、そういうものになっていってほしいと思っています。

よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。

報告第 6 号について、これを承認することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

石田委員長

異議なしと認めます。

よって、報告第 6 号につきましては承認されました。

続きまして、日程第 5、「諸報告」であります。「令和 8 年度市立幼稚園・認定こども園 1 号園児募集に係る入園内定状況(2 次募集)について」事務局から説明をお願いします。

入園所相談課長
(岸本)

それでは、令和 7 年 1 2 月 1 日に行いました、令和 8 年 4 月入園の市立幼稚園と認定こども園 1 号の 2 次募集の結果についてご報告いたします。

資料の色塗りの部分が 2 次募集による内定人数になります。

まず、市立幼稚園では久代幼稚園、多田幼稚園の 4 歳児でそれぞれ 1 名、認定こども園では牧の台みどりこども園、加茂こども園の 3 歳児でそれぞれ 1 名が内定しております。

令和 8 年 4 月の 1 号在籍予定数は、票の右端の欄の人数となりまして、例えば、久代幼稚園では合計 7 名、多田幼稚園では合計 11 名という、右端の欄の数字になります。

傾向としましては、幼稚園では応募人数が少数であること、また、認定こども園についても 1 号のニーズというのは、今回は少なかったですけど、またこれが続くのかどうかというのはありますけども、全体としては減少している傾向にあるのかなと感じております。

簡単ではございますが、報告は以上です。

石田教育長

報告は終わりました。質疑、意見等ございませんか。

これについても、協議会で割と詳細な話はあって、今後の1号の動きみたいなものは継続して見ていかなければならないと思いますし、そのときの対応みたいなものも、現場の状況も確認しながら見ていかなければいけないかなと思いますけど、よろしいでしょうか。

報告は、以上になります。

以上で、本日の議事は全て終了いたしました。

次回は、1月22日木曜日、午後2時から、庁議室にて定例会を開催予定としています。

これをもちまして、令和7年第22回川西市教育委員会定例会を閉会します。お疲れさまでした。ありがとうございました。

[閉会 午後2時36分]

以上会議の事項を記録し、相違ないことを認めましたので、ここに署名いたします。

令和8年1月22日

署名委員 治部 陽介 ㊟

金子 愛 ㊟